

安全運転を呼びかけ

年末の交通安全・飲酒運転追放

年末の交通安全運動期間・飲酒運転追放強調月間中の12月20日、国道7号線沿いの「道の駅たかのす」で、北秋田市交通安全母の会会員20名が、交通安全のリーフレットをドライバーへ手渡し安全運転を呼びかけました。この運動は、「飲酒運転の徹底追放」「子供と高齢者の交通事故防止」「シートベルトとチャイルドシートの着用徹底」を運動の重点とし、ドライバーの安全運転意識の啓発を目的としています。

この日は、大館方向から能代方面へ向かう自動車を対象に安全運転を呼びかけました。また、現在、秋田わか杉国体・大会交通マナーアップ県民運動が大会が終了するまでの期間実施されています。



ドライバーに安全運転を呼びかける会員

ふるさとの味をお届けします

合川ふるさと会「ふるさと便」

ふるさとの味覚をお届けする合川ふるさと会（18年度会員146人）の「ふるさと便」の発送が12月12日、大野台ハイランドハウスで行われました。

ふるさと便は、合川地区にゆかりのある方や、合川出身者、旬のふるさとの味を楽しむにしている方などに、会員制で旧合川町が昭和62年から実施しているもので、今年で20年を迎えました。

年会費は1万円、合川産のあきたこまちや、合川産比内地鶏のキリタンポセットなど年2回（10月・12月）発送しています。そのほか、毎月1回市広報も送付して故郷の話題もお届けしています。



ふるさとの味の発送作業を行う事務局

市の教育施設などで活用を

建設技能組合鷹巣支部寄贈

大館北鹿建設技能組合連合会青年部がこのほど、各種表示に役立ててもらおうと、研修活動で製作した看板10枚を12月8日、市教育委員会に寄贈しました。

同青年部ではこれまで、清掃や公共施設の修繕などのボランティア活動を行ってきました。最近では「何か形に残るものを」と、各地区ごとに組織されている支部持ち回りで看板を製作し地域に寄贈、昨年はこの活動を阿仁地区で行っています。

今年度は鷹巣地区が対象となり、11月18日、部員有志30人の参加で看板を製作しました。

この日、小塚寿支部長と村上常博事業部長が、看板を持参し、三澤仁教育長に「教育施設などで活用してほしい」と手わたしました。



看板を三澤教育長に手渡す小塚支部長

お遊戯とだまっこで交流

浦田地区いきいきサロン

市立浦田保育園の園児16名と浦田地区いきいきサロンの方々14名が12月5日、浦田児童館で交流を深めました。

交流会は園児の自己紹介からはじまり、1人ずつ大きな声で名前を言うとお年寄りが「たれそのどこのだ」と確認しながら「おっきくなつたこと」と話しながら自己紹介を聞き入りました。

引き続き園児たちが3種類のお遊戯を披露し、お腹がすいたところで、サロンの方々がつくった「だまっこ」をこちそうになり園児たちは「おいしい」と満悦の様子。

園児、サロンの方々とも有意義な一日となりました。



お遊戯やだまっこでの交流のつどい

わか杉国体のPR看板を寄贈

市観光協会合川支部

当市で行われる秋田わか杉国体フェンシング競技のPR看板が12月15日、市観光協会合川支部より市へ寄贈されました。

北林支部長は「国体は北秋田市をアピールする絶好の機会。国体を盛り上げていき、同時に市の観光もアピールしていきたい」と看板の作成を考案。看板は、縦150cm・横270cmで、フェンシングの試合が描かれており、選手の顔にあたる部分には裏側から顔を入れることができ、写真撮影にはピッタリ。訪れる方の人気を呼びそうです。横には「フェンシングスギツチ」も描かれています。

この看板は、選手権大会会場に設置したほか、わか杉国体のPRにも使われる予定です。



寄贈されたフェンシングの国体PR看板

シーズンの安全と来客を祈願

平成18年度阿仁スキー場安全祈願祭

森吉山阿仁スキー場で12月7日、今月14日のオープンに向けた安全祈願祭と救助訓練が行われ、市、阿仁森吉商工会やスキー場関係者等約40名が出席し「今シーズンの安全と多くの来客」を祈願しました。

引き続き山麓駅舎二階乗り場後側で、ゴンドラが停止したことを想定して従業員がスキー客を救助する訓練を行いました。

同スキー場は、昭和62年にオープンし今シーズンで20年目を迎え、今年にはサンシャインコースが復活しています。

また、同スキー場は、西武ホールディングスの子会社であるプリンスホテルの再構築対象事業所となっておりますが、7日、東京都赤坂に本社がある世界有数の総合金融グループのシティグループ・プリンシパル・インベストメンツ・ジャパンに譲渡されることが決まりました。



救助訓練を行う従業員